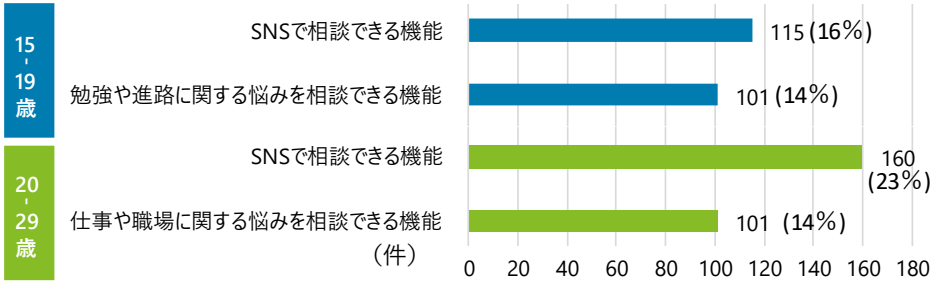
ネウボラセンターの設置等「福山ネウボラ」の強化に向けた調査研究業務 結果サマリ

1．調査研究の概要

▼ニーズ調査に利用した、既存調査及び主な結果（①）

調査名	調査対象	調査結果
こども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査	就学前児童を持つ保護者 小学生の児童を持つ保護者 （n=4,036）	➢ **相談が直接的な解決につながる**支援を求めている ➢ 施設に関連する**情報の積極的な発信**が必要である
こどもの生活に関する実態調査	小学5年生とその保護者 中学2年生とその保護者 （n=2,200）	➢ 小学生の親では、**家庭や学校外で安心して過ごせる場所の提供や多様な活動機会の提供**ニーズが高い ➢ 中学生の親では、**将来社会で活躍できる力を身に着けることへの支援**ニーズが高い
こども・若者世代実態調査（※）	15歳～39歳の市民 （n=705）	➢ **SNSを活用**した情報提供が有効であると考えられる ➢ 子育てをする**親同士の交流の機会の提供**が必要である
こどもの窓口に関する中核市調査	中核市に位置付けられる59自治体	➢ 中核市では**ワンストップ窓口**を設置している自治体は**17自治体のみである** ➢ **こども・若者の居場所づくりの必要性は高い**と考えられる

<こども・若者世代実態調査における若者世代（15-29歳）の支援ニーズ>（※）



▼先進的な事例調査の対象と主な結果（②）

自治体名	施設名	調査結果（主な特徴）
岐阜県岐阜市	子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」	**専門家が常駐**し、子育てに関する相談に対してスムーズな対応が可能である
三重県伊勢市	伊勢市健康福祉ステーション	アクセス面も良好で、複数のサービスを提供している
東京都日野市	日野市子ども包括支援センター「みらいく」	**カフェ等が併設**しており、居場所としての機能を有している
大阪府箕面市	らいとぴあ21（箕面市萱野中央人権文化センター）	**相談機能と手続き機能が分離**している
大阪府茨木市	茨木市文化・子育て複合施設おにクル	役所に隣接しているため、**行政との連携がスムーズ**に行える
愛媛県今治市	（仮称）今治版ネウボラ拠点施設	**相談機能と手続き機能のどちらも有**している
神奈川県横浜市	地区センターのプレイルーム（18区27館）	**相談機能や育児支援を一部業者に委託**しており、行政とのすみ分けが明確
京都府京都市西京区	親子のあそびば「らくさいきのひろば」	**木製玩具が充実**しており、こどもが安心して遊べる環境が整備されている
東京都荒川区	ゆいの森あらかわ	**図書館から託児所まで整備**されており、老若男女問わず利用できる
茨城県常陸大宮市	屋内こどもの遊び場わくわく　ピサーロの森	屋内施設であり、**天気の影響を受けずに幅広い年代のこどもを遊ばせることのできる環境**が整備されている
東京都渋谷区	coしぶや	アクセスが良好かつ、**悪天候時でもこどもが遊べる環境**が整備されている

- 本調査研究においては、ネウボラセンターに対する市民のニーズを把握することを目的として、福山市が実施した 4 調査の結果をもとに検討を行った（①）
- さらに、子育てに関連した機能の集約・整理等により市民の利便性が向上した事例やデジタル活用等を含め、ネウボラセンターとして先進的な取り組みを行っている11の自治体の施設について事例の収集を行い、福山市に設置が見込まれる新たなネウボラセンターのコンセプト・機能の検討に活用した（②）
- 全体的な市民のニーズとしては、**「相談・解決」「交流の場」「情報発信」「居場所」に関する内容が多く**みられ、**先進事例においても多くのケースでこれらに対応した機能が設置**されており、各自治体の工夫を凝らした取り組みが実施されている傾向がみられた

2．分析結果の概要

▼調査研究を踏まえた、新たなネウボラセンターに設置することが望ましいと考えられる機能

調査結果を踏まえ、市民のニーズが高いと考えられる機能	新たなネウボラセンターに設置することが望ましいと考えられる機能
相談・解決	**悩みを相談したら解決に直結する仕組み** 悩みの種類・支援ニーズは年代によっても多様であることから、オンライン相談、LINE相談等の導入も含め、**様々なニーズに寄り添うことのできる相談機能**を設置することに加え、**相談から解決までワンストップで支援できる支援体制の構築**が望ましい
交流の場	**子育てをする親同士が交流できる機会の提供** **こどもを遊ばせながら、親同士が交流できるような場の整備**に加え、**SNS等を活用した、バーチャル空間でのコミュニケーション機会が創出**されることで、より幅広い対象が利用できる機能になると考えられる
情報発信	**支援に関する情報の提供** 支援ニーズは多様であることから、対面・オンライン（SNS）を組み合わせながら、様々なニーズに寄り添うことのできる支援プログラムを用意するとともに、**SNS等の媒体をうまく活用**し、こうした**支援に係る情報を対象者に広く提供・周知することのできる機能**が必要である
居場所	**悪天候でもこどもが遊べる設備・誰もが落ち着いてくつろげる居場所の整備** 利用する年代に応じ、**リアル・バーチャルを組み合わせながら、様々な市民の「居場所」となるような場を整備**することが望ましい

- 調査結果を踏まえると、**市民のニーズとしては「相談・解決」「交流の場」「情報発信」「居場所」に関するものが多くみられた**ことから、この結果と先進事例調査および国のトレンド・市の取り組みへの評価等の結果をかけ合わせて総合的な分析・検討を行った
- 分析・検討の結果として、新たなネウボラセンターに設置することが望ましい機能として、上記の4つを整理した

3．今後の展望

▼本業務を通じて検討した「4つのコンセプト案」

	案①	案②	案③	案④
コンセプト	駅前でアクセスしやすい百貨店	様々な人が集まる複合機能を有効活用した施設	幅広い年代のこどもとその保護者がのびのび楽しめる施設	身近な支所を活用した施設
設置候補地	天満屋（改装）	エフピコRIM（改装）	建設予定の未来館（新設）	拠点4支所（改装）
特徴的な機能 ※下線は新設の機能・要素	✓ 遊び場機能（子育て応援センター、えほんの国、プレイルーム＋屋内遊具の拡充） ✓ 市内全域の保護者同士、こども同士の交流およびSNSなどを活用した情報発信の拡充（オンラインおしゃべり広場、あのねオンライン相談） ✓ 若者の居場所 ✓ 相談機能（ネウボラ相談窓口「あのね」、若者を対象とした相談、手続機能の拡充） ※一部DXを活用	✓ 施設の入居企業や地域の団体等とコラボレーションした交流機能 ✓ 市内全域の保護者同士、こども同士の交流機能およびSNSなどを活用した情報発信機能 ✓ 既存施設（会議室など）を活用した若者の居場所の創出	✓ 大型遊具のある遊び場機能（屋内・屋外） ✓ 市内全域の保護者同士、こども同士の交流機能およびSNSなどを活用した情報発信機能 ✓ 若者の居場所 ✓ 相談機能（手続きの受付を含む） ※一部DXを活用	✓ プレイルーム（主に乳幼児を対象とした屋内遊び場機能の拡充 ※玩具、絵本等の設置を含む） ✓ 主に乳幼児の保護者・こども同士を対象とした交流機能の拡充 ✓ ワンストップでの相談・手続き機能 ※一部DXを活用
主なメリット・デメリット	【メリット】 ✓ 市内中心部に位置し、市内の様々なエリアからアクセスしやすい ✓ 年間4万人に利用され、子育て世代を中心に定着している ✓ 既存の施設を改装することで、コストを抑え、**早期にオープンが可能** 【デメリット】 ✓ 百貨店の中にあることで、特に相談等では敷居を高く感じてしまう可能性がある ✓ 施設の仕様によって追加できる機能に制限が生じる可能性がある	【メリット】 ✓ 市内中心部に位置し、市内の様々なエリアからアクセスしやすい ✓ **既に入居している企業との連携や施設が保有する設備・機能を活用可能** 【デメリット】 ✓ **建設工事等のため、オープンまで一定の準備期間が必要になる** ✓ 設置費用が高額になる	【メリット】 ✓ 新設であることから、施設の仕様についても比較的柔軟に検討可能であるため、**必要な機能をすべて盛り込める** ✓ 新設であるため、場所に対する先入観・イメージの影響を受けづらい 【デメリット】 ✓ **建設工事等のため、オープンまで一定の準備期間が必要になる** ✓ 設置費用が高額になる	【メリット】 ✓ 既存施設・機能を有効に活用することができ、**比較的低予算での整備が可能** ✓ 地域の身近な施設であるため、**保護者・こどももアクセスしやすい** 【デメリット】 ✓ 施設の内容、規模から主な利用対象が乳幼児・保護者に制限される ✓ 施設の仕様等によって追加できる機能に制限がある

- これまでの検討結果を踏まえ、新たなネウボラセンターのコンセプトとして、上記の4つを整理した
- いずれの案にもメリット・デメリットがあるが、**えほんの国等の施設が既にあり、これらを活用しながら早期にオープンが可能である案①が望ましい。また、市内各所の支所を活用し、全地域でのこども・子育て支援のための機能拡充が可能な案④を組み合わせることで効果が高まる**ものと考えられる